



## 11 徳川家康黒印状写カ

慶長 5 年 (1600 年) 9 月 11 日

関ヶ原の戦いに際し、本山派修験ほんざんはしゅげん (聖護院を本山とする修験道) の極楽院 (現高崎市箕郷町和田山) が、戦勝を祈願した祈祷札と墨を家康に届けたことに対しての返礼状の写と思われます。

多くの戦国大名は合戦に際し、領国の寺院に対して戦勝祈願を課していましたが、家康の領国となった上野国においても例外ではなかったようです。また、取次ぎを担った「全阿弥」は本名を内田正次うちだまさつぐといい、家康の初期の宗教行政に於いて重要な役割を果たした人物です。

浦野安孫家文書 P0603 No.15

【11】 徳川家康黒印状写カ

(P0603 浦野安孫家文書 No.15)

〔読み下し文〕

在陣ざいじんに祈念きねんの守札まもりふだ並びに五明墨ごめいぼくを届まけんが為ための到来らいらい、祝しゆ着ちやくに候まう、委細いさいは全阿弥ぜんあみ申まうすべき也、

九月十一日 御黒印  
極 楽 院

本文の通り相違無き者也、

賞珉印